

「大学院工学研究科年報2020年度版」刊行に寄せて

著者	綿野 哲
引用	大阪府立大学大学院工学研究科年報. 2020
URL	http://hdl.handle.net/10466/00017454

「大学院工学研究科年報2020年度版」刊行に寄せて

工学研究科長 綿野 哲

2020年春、新型コロナウイルスによる未曾有の危機が世界を襲いました。政府が発出した緊急事態宣言により、大学は学生の立入禁止措置を取り、前期の授業は全てオンラインで実施することとなりました。後期になって大学が再開されても、大学院生は3密を避けるため分散登校を余儀なくされ、十分な研究時間を取るのが困難でありました。輸送機関の遅れにより、発注した資材がすぐに手元に届かなかったり、機器のメンテナンスができなかったりと、研究活動に相当深刻な影響が出ておりましたが、教職員と大学院生の創意工夫と努力により、従来と遜色のない素晴らしい研究成果を挙げることができました。その成果をまとめた「大学院工学研究科年報2020年度版」を刊行できることはこの上ない喜びであります。

大阪府立大学大学院工学研究科では、自己点検・評価および社会貢献の一環として、平成2年の創刊以来、毎年、研究成果を年報として取り纏め、公表して参りました。本年報は、令和2年4月から令和3年3月までの1年間に工学研究科の教員や学生による研究活動の成果を取り纏めたものです。具体的には、教授76名、准教授78名、講師12名、助教26名の合計192名（令和3年3月末現在）の教員、大学院生（博士前期課程、後期課程）および学部4回生（卒業研究受講生）らによって発表された著書、論文、国際会議録、解説・総説、国際会議や国内会議での講演、新聞・雑誌記事等への掲載を網羅的に掲載するとともに、外部資金の獲得状況、学位論文題目、学協会から表彰を受けた被顕彰者名、海外からの来訪者等を巻末に載せております。

大学院工学研究科は、6専攻10分野から構成され、幅広い分野で横断的な最先端の研究を展開しています。また、充実した多様な教育プログラムと最先端の研究を通して高度な研究開発能力を身に付けた、豊かな人間性と高い倫理観を持ち合わせた優秀な人材を育成しています。その集大成ともいえる本年報をご一読いただき、皆様の忌憚のないご意見・ご評価を仰ぐとともに、ご活用頂けるテーマがあればお気軽にお声がけ頂ければ幸いです。本年報が、工学研究科構成員の研究活動に一層の発展をもたらし、産業界においても新しい研究開発の契機となることを祈念して、刊行に寄せる言葉とさせていただきます。

2021年6月